

## 皆さんの先輩は・・・「わが青春の記録」(生徒生活体験発表会)

「わが青春の記録」という文集は、東京都高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会で発表された生活体験の記録です。

東京都高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会は、昭和28年から71回を数える歴史と伝統を持つ大会です。文集には、真剣に生きようと努力している高校生の姿がつつられています。その一つ一つが、挫折や困難を乗り越え、自己実現を図ろうとすることの大切さとすばらしさを教えてくれます。代表として、令和6年度の文集から、須田さんと唐さんのお話の一部を抜粋します。

### 「ゆっくり探せ 自分の未来」

都立青梅総合高等学校 四年 須田 祐一郎

私は日本人の父とフィリピン人の母とのハーフです。小学校では、徐々に国語と算数の勉強についていけなくなり、中学校に入っても、支援学級に在籍しました。私は確かに勉強は苦手でしたが、もっとたくさんのお話を学んで、もっとたくさんの人と触れ合いたいと思っていました。高校進学時には、全日制課程の普通科高校にスポーツ推薦で入学しました。しかし、1学期を過ごしてみると、勉強や人間関係に追われ、ほとんど自分のことを考える時間がありませんでした。

「まだやり直せる」。先生や母親と何度も話し合い、青梅総合高校定時制課程に転学する決断をしました。定時制高校は、自分を見つめ直せたり、将来をじっくり考えられる時間がゆったりと流れているはずだと信じていました。

入学してみると、定時制には様々な仲間がいました。私と同じ外国にルーツを持つ仲間、支援級に通っていた仲間、不登校だった仲間です。あまり口には出ませんが、その仲間たちがそれぞれやり方で現在の自分や将来のことを考えて、悩んでいることに気づきました。

高校生活に少し余裕が出てきた私は、翌年生徒会に入り、3年になって生徒会長に立候補しました。私が会長として、最初に取り組んだことは、結論を急がないことです。後輩たちと話し合うとき、結論を出すのを急がせず、みんなでゆっくりと考え、まとめることにしました。その結果、学校説明会での生徒会による学校紹介は大成功に終わりました。

私の卒業後の進路は、約3年間じっくりと考え、俳優になると決めました。私はどんな役でも自然に演じられる俳優になりたいと思っています。それにはたくさんの人と出会って人間を知ることだと考えています。定時制にはそのチャンスが溢れています。これからは何事にも余裕をもってじっくりと考えながら、丁寧に生きていきたいと考えています。

Search slowly for your future.

### 「ドン・キホーテ」

都立大崎高等学校 三年 唐 鵬

おれは三年生の春まで、自分が定時制の生徒であることを、とても気にしていた。元々しゃべるのが好きだったおれは、少人数で静かな雰囲気、とても居心地悪かった。

おれは小学校のときに中国から来日した。高校の入学式には、中国からおじがきてくれた。しかし、少人数で多様な年齢の同級生を見たおじは、自分の学校へのイメージのギャップから、おれの前で初めて涙をみせた。「本当に、この学校で良かったのか。」おれは返事をするのができなかった。

高校の授業が始まると、積極的な発言や学習を褒められることが多々あった。その結果、おれは自分を「天才」だと思い、誰に対しても上から目線になった。その結果、自ら「将軍」というあだ名をつけた。「学校をもっとよくしてやる」と意気込んで入った生徒会でも、他の委員と意見が対立することがしばしばあった。

三年生の春、スポーツ大会の実行委員長を決める日、おれは当然のように立候補をした。しかし、おれは委員長になれなかった。「なんで皆おれのこと信じてくれないんだ！」おれは絶望し、苦しみの中で考え、やっと気づいた。私が、今までずっと、自分が正しいという妄想に陥っていて、みんなを傷つけていたことを。それからの私は、みんなの意見を尊重し、協力し合う事を心から決意した。

セルバンテスが書いた『ドン・キホーテ』は、主人公が自分を騎士だと妄想し、次々とトラブルを巻き起こす物語である。ドン・キホーテは、死の間際まで、自分の現実の姿に気づけなかった。でも、私は自分の妄想から抜け出すことができた。自分の妄想に陥っていると自分を失ってしまう。一方で、妄想から抜け出そうとすると、自分を失ってしまうような恐怖を感じていた。しかし、私は一人ではなかった。私を理解し、信用してくれた大崎高校の先生方と友達のおかげで、自分を乗り越える一歩を踏みだすことができた。今なら、入学式の時のおじの問いかけにも、胸を張って答えることができる。「この学校に入学してよかった。」